

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

最南端の読者からの報告・・・沖縄尚学高校の高橋和仁先生より

沖縄尚学高校の高橋です。山のない沖縄県、ほそぼそと活動してきた本校山岳部ですが、それでも今年は山岳部に男子6名、女子4名の新入部員が入ってきました。シューズもテントもない状況ですが、週末を利用しての本島北部地域で練習しています。

今年は運よく休暇に恵まれ、この2月、3月、5月と長野に行く機会を得ました。といってもスノーボードです。雪山に入るのはまだ時期尚早かと。グリーンシーズンには是非夏山を楽しみたいと思います。3年生の担任になりました。受験指導で忙しい毎日ですが、せっかく部員の集まった山岳部、何とか活動を軌道に乗せたいと思っています。

今後かわらばんを通じていろいろなことをご教示ください。以上近況ご報告まで。
沖縄県唯一、しかも発足したばかりの山岳部の顧問高橋先生とは、昨年の国立登山研修所の安全登山普及指導者中央研修会で知り合いました。国内においては最も南にお住まいのかわらばんの読者です。それにしても男女合せて10人の新入生とは羨ましい。本島北部山原の自然は、探検的な要素もあって面白いんだろうなあ。(大西)

連休中の小遠征・・・野沢南高校の塩川淳男先生より

東京都の最高峰に登ろう。昨年はGWに両神山に登った野沢南高校山岳部は、今年は百名山でもあり、東京都の最高峰でもある雲取山を目指しました。参加者は男子のT君とU君と女子のHさんとTさんに顧問の計5人でした。秩父の芝桜祭の渋滞と地形図購入(結局25,000分の1は購入できず)のため、三峯神社の駐車場を出発したのは11時45分でした。コースタイムは5時間で、案の定途中で会った埼玉県警山岳救助隊の方に「到着は5時を過ぎますね。寒さ対策は大丈夫ですか。」と確認されてしまいました。全員、羽毛服の上着は持っていましたが、「朝は-2℃まで下がりましたよ」のことに寒くて目が覚めるかなと少し覚悟はしました。メインザックにペースは上がりませんでした。16時31分には雲取山荘に到着しました。

翌日の朝の寒さに女子テントはランタンを点けて暖をとりました。Tさんが車酔いで体調不良だったので、男子2名と頂上へアタックに行きました。雪が雨で溶け、さらに凍ってツルツルの登山道に、軽アイゼンでも持ってくればと思いましたが、途中で引き返すこともありとの確認をして頂上を目指しました。幸い山頂に立つことができ、富士山や南アルプスを見ることができました。朝食後の降りは軽快で、多くの登山者の方から声をかけていただきました。雲取山荘9時4分発、三峯神社駐車場には12時45分着でした。帰りは雁坂トンネル越えで甲府～野辺山経由のルートで、野辺山のHさんを最初に下ろすこともできました。天候にも恵まれて、いい山行でした。

〈蘊蓄〉鹿には5回も遭遇しました。食害対策もされていましたが、人間を見ても驚く様子はまったくありませんでした。雲取山荘前には立派なトイレがありました。中に「東京都最高所水洗トイレ」の表示がありました。帰りに会った県警山岳救助隊の方に伺ったところ、山荘の住所は埼玉県とのことでした。(顧問：塩川淳男)

山岳総合センター高校登山研修会感想その1:顧問編

移動を顧問の車で行なったのは（生徒の負担減になり）よかった。以前の2泊3日の日程と比較して、コンパクトで実質的になった印象を持ちました。その反面、アイゼン装着やロープワーク等については時間的余裕のない分、慌ただしい面があったように思いました。天候にも恵まれ、充実した研修会であったと思います。装備不十分の部分（サングラス等）についてもご配慮をいただき有難うございました。（長野西 宮入T）

初日は歩行、滑落訓練の基本理解ができました。2日目は峠まで登って快適でした。ロープワークも良好でした。入部したばかりの生徒を連れてきました。景色にも圧倒され、夜は焼き付いた風景をスケッチブックに描いていました。すべての経験が初めてですが、丁寧に教えていただき納得していました。最高の天気で貴重な経験でした。有難うございました。私自身は自己流を見直す機会ともなりました。多くの方に参加してほしい企画です。（美須ヶヶ丘 白澤T）

来年度も多数参加があるよう広報宣伝をお願いします。（教員間でも行ないませんが）講師の具体的で的確な指導のおかげで生徒は多くを学びました。今滝先生を上回る講師は少なくとも県内では見当たらないでしょう！！最高のコンディションの下、針ノ木峠まで到達できたことが非常によかった。美しい雪の景色に接し、生徒にとっては、研修を越えた心に残る山行になったと思います。実践的で有意義な雪上歩行訓練になった。顧問班を作ってください。顧問の輪も広がる一助になると思うので。（大町 小沼T）



編集子のひとごと

センターの高校登山研修会で針ノ木峠から下っている時、面白い自然現象に出会った。「水平環」（環水平アーク）と呼ばれるこの現象は、大気中の氷粒に、太陽光が屈折し、ほぼ水平な虹が見える光学現象で、一般の虹が太陽とは反対の方向に見えるのに対し、こちらは太陽と同じ方向に見えるのだそうだ。研修会の参加者が20名を越えたのは8

年ぶりとか。今回は17名の生徒と4名の顧問を2班に分け（顧問も生徒班に編入）、今滝さんと小生が講師を務めた。顧問の先生方にも補助をしていただけたので研修はつつがなく終わったが、一方で小沼さんも言われるように、顧問班は独立させた方がよかったかなというのは僕も同感だった。（大西 記）

